

攪拌ヘッドに供回り防止機構を施し 土くれの解砕性能が大幅に向上

供回り防止翼の上下の間隔と改良径との比率を、ほぼ一定にした独自のスラリー系機械攪拌式深層混合処理工法。攪拌不良が起こりやすい粘性土でも効率よくすり潰せるように、地盤の性質・改良径に応じて、供回り防止翼の出幅を片側50～100mmの間で選択可能とした。これらの技術により、土くれの解砕性能が向上でき高品質なコラムの形成を実現した。

■認定

- ・建築技術性能証明 (GBRC 性能証明 第22-40号 改1)

【特長】

①独自の攪拌ヘッドを採用

攪拌ヘッドに独自の供回り防止策が施され、攪拌効率が向上したことで高品質なコラムを形成する。

②幅広いコラム径の選択肢

小規模建築物は改良径φ400mm～φ1000mmまで、小規模建築物以外は改良径φ400mm～φ1600mmまで対応できる。

③変動係数25%を実現

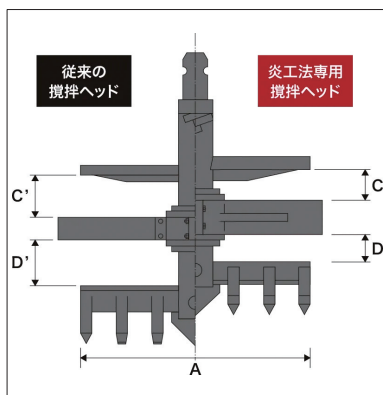
添加剤を使用せず、純粋な攪拌のみで変動係数25%を実現した。

④幅広い改良形式に対応可能

杭形式（杭配置・接円形式・ラップ配置）、ブロック形式、壁形式などの改良形式から選択できる。

⑤さまざまな施工機械に対応

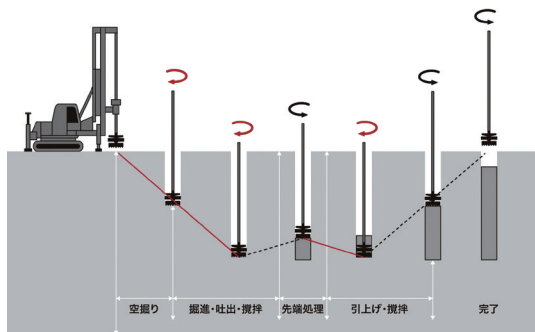
クローラー式やラクタークレーン式、建柱車、バックホウなどの施工機械に対応可能。



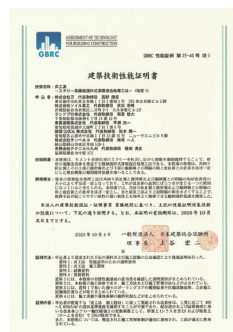
A=改良径

B、B'=攪拌翼～供回り防止翼

C、C'=供回り防止翼～掘削翼



施工手順



建築技術性能証明書

問い合わせ先

炎工法協会 TEL03-5829-4542 <https://homura-koho.jp/>